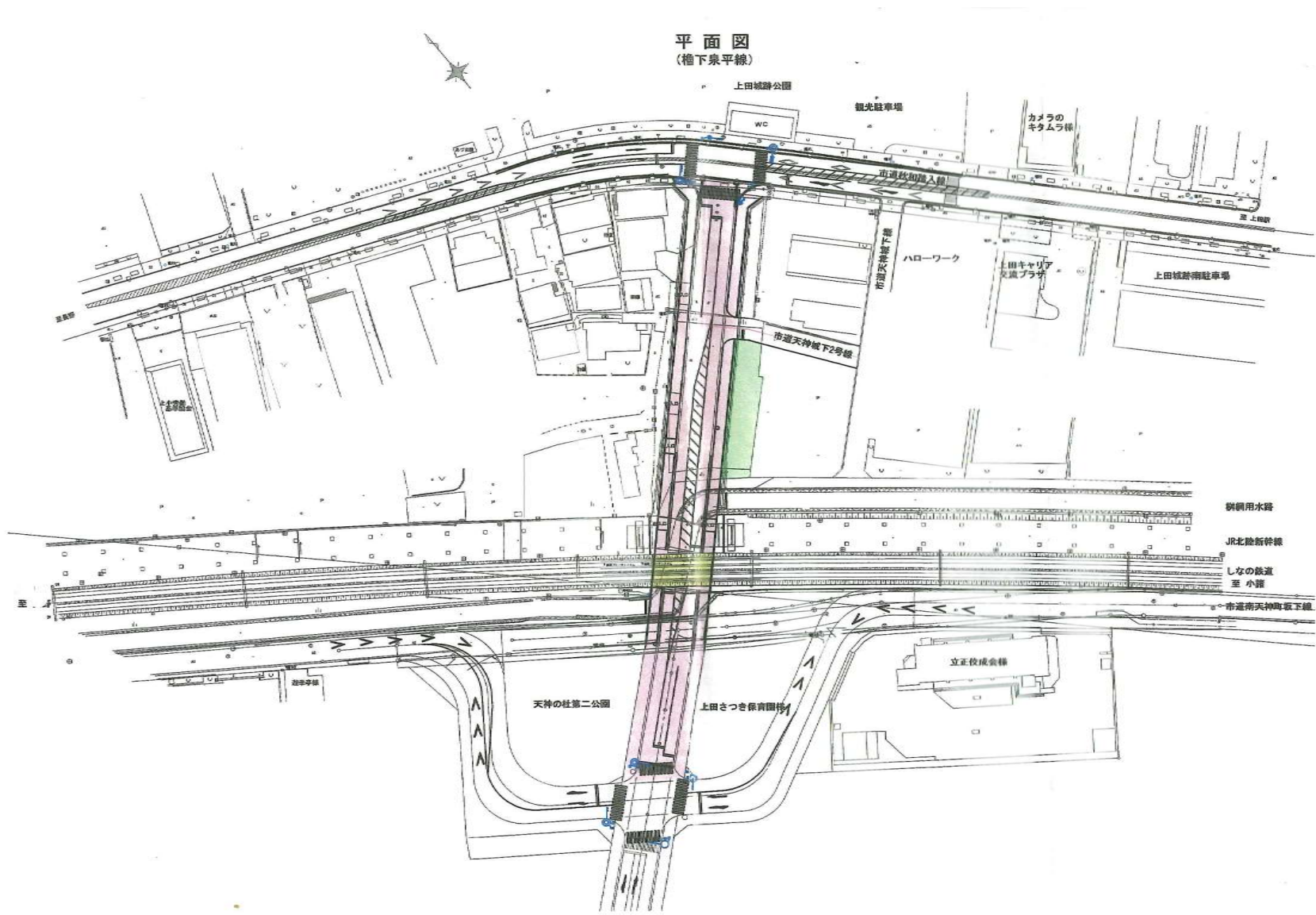


# ともに生きる社会を (大久保さんの事故死を考える)

2017年（平成29年）6月27日大久保五男さん（当時67歳）が上田市天神しなの鉄道踏切内線路を50メートル歩き急行列車にはねられ死亡した。大久保さんは視野が欠ける視神経萎縮障害者で、3ヶ月に一回御代田町の病院を受診のため、上田駅に行く途中だった。3ヶ月前に上田市観光公園駐車場に向かう新たな道路が開設された。なぜこのような事故が起きたのか、当事者の視点で検証をおこなった。

上田公園観光駐車場に向かう道  
3月27日に開通





大久保五男さん事故現場、踏切から線路内50メートル歩いて急行列車に、はねられた。

大久保五男さん事故現場黙祷。



## 2017年7月22日現場検証

現場検証を長野県視覚障害者協会所属の視覚障がい者3名とわっこ自立福祉会所属の車いす障害者3名、介助者の14名で大久保さんがたどったと思われるコースを歩いた。検証する中で以下の問題点が明らかになった。

観光駐車場に向かう道路は3月27日に開設された。上田ではNHK大河ドラマ「真田丸」放映で観光の誘客が進んでいた。この道が開設された情報は、大久保さんに伝わっていなかった。



3カ月前にはこの道路はな  
かった。手前の信号機から  
アリオ裏から駅に行く道が  
ながっていった。



踏切内に点字ブロックはない。手前信号から目標を誤り、踏切に入り、そのまま線路内を歩いた。



# 天神踏切

切 上田公園観光駐車場から見た踏



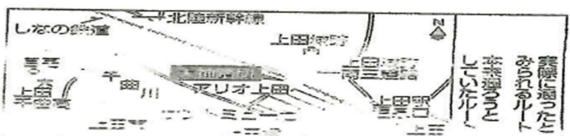


## 視覚障害道間違え踏切へ

### 上田の男性死亡事故NPOが検証

### 追跡

「踏切で赤信号を青信号と誤認して踏切を渡る途中、列車に衝突し死亡した」という、上田市の男性の死亡事故。NPO「視覚障害者支援機構」が検証を進めている。検証は、事故現場の様子を再現し、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識などを検証する。また、踏切の構造や信号機の設置位置なども検証する。検証の結果、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。また、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。



### 道路・鉄道管理者間の連携課題

### 交通弱者の声反映急務

交通弱者の被害防止の観点から、道路と鉄道の管理者間の連携が急務である。視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識などを検証し、踏切の構造や信号機の設置位置などを検証する。また、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。また、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。

### 新設交差点 方向感覚失った可能性



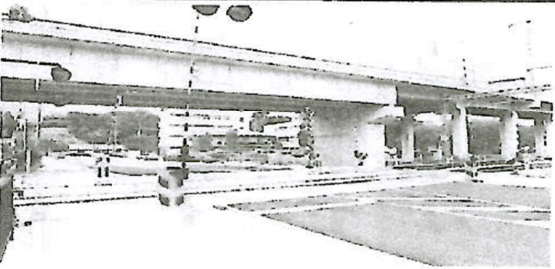
事故現場の様子。視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識などを検証し、踏切の構造や信号機の設置位置などを検証する。また、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。

上田市の北国新幹線沿線。踏切の位置を示す地図。踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。また、踏切の構造や信号機の設置位置などが、視覚障害者の歩行速度や歩行方向の認識に影響を与えていることがわかった。

# 上田の踏切 視覚障害者死亡事故

## 市、再発防止策検討へ

### 25日関係機関と現地診断



近くの線路上で死亡事故があった上田市の「天神踏切」。市が現地診断する＝22日

上田市天神のしなの鉄道上田―西上田間の「天神踏切」近くの線路上で6月、視覚障害者のある同市中之条の大久保五郎さん(75)が快速列車にはねられ死亡した事故を受け、市が同鉄道などと連携し、再発防止策を検討することになった。大久保さんが外出支援サービスの利用先だった市内のNPO法人「わっこ自立福祉会」が事故状況を調べ、7月に市に提出した報告書に基づき、25日に現地診断を行う。

市都市計画課によると、現は天神踏切のほか、上田城跡地診断には市、上田青いしなの南三善路など計4カ所が視覚の鉄道(上田市)、県視覚障害者センターなどから計約20人が参加を予定する。報告書は視覚障害者が事故に遭わない

ための具体策を協議やしなの鉄道と検討する。

報告書は、交通渋滞解消のため3月に新設された市道の存在に大久保さんが気付かず、天神踏切から線路内に立ち入った可能性を指摘している。同課は「ハード面だけでなく、新設道路の周知の仕方などソフト面についても当事者や支援者の意見を参考にしたい」としている。

同課の三浦哲夫課長(55)は「一度このような事故が起きないように、再発防止に取り組み必要がある。現地で状況を把握して、改善策を検討したい」。わっこ自立福祉会職員で大久保さんを知る武田幸作さん(66)は、「一度の現地診断だけで全て解決することは難しい。一つ一つしっかり時間をかけて検討を重ねてほしい」としている。

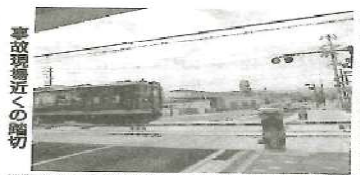
# 上田市再発防止策を対策を検討7月25日に現地診断を行うことを公表

# 長野・踏切事故現場

8月24日午前9時37分ごろ、長野県を走るしなの鉄道上田駅から西上田駅の間にある踏切近くで自決を持った視覚障害の男性が、列車にはねられ亡くなった。踏切には、遮断機や警報機があるが、男性がはねられたのは、踏切から約50メートル離れた場所から。なぜ男性はそんな場所に入り命を落としたのか。現場環境などを歩き、町並みの変化や音環境などが影響したのではと見られる。

【佐木理人】

## 足元 最前線に行く



事故現場近くの踏切

**待ち合わせに 向かう途中**  
亡くなったのは、同市内の市営住宅で一人暮らししていた大久保五男さん（75）。大久保さんは、中途の視覚障害で、身体障害者手帳2級。普段から杖を手にかけていた。事故に遭ったのは、大久保さんが、西上田駅へ向かう途中だった。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。

**待ち合わせに 向かう途中**  
亡くなったのは、同市内の市営住宅で一人暮らししていた大久保五男さん（75）。大久保さんは、中途の視覚障害で、身体障害者手帳2級。普段から杖を手にかけていた。事故に遭ったのは、大久保さんが、西上田駅へ向かう途中だった。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。

**勘違いの重なりか？**  
音響信号機など設置求める  
大久保さんがひかれたのは、踏切の長野行き快車。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。



事故現場近くの踏切に立つ武田さんと中山さん

**勘違いの重なりか？**  
音響信号機など設置求める  
大久保さんがひかれたのは、踏切の長野行き快車。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。

**勘違いの重なりか？**  
音響信号機など設置求める  
大久保さんがひかれたのは、踏切の長野行き快車。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。

**勘違いの重なりか？**  
音響信号機など設置求める  
大久保さんがひかれたのは、踏切の長野行き快車。大久保さんは、踏切を渡り、交差点を向かって歩くと、交差点のすぐそばで、列車と正面衝突した。大久保さんは、列車の下をくぐり、左折すると武田さんとの待ち合わせ場所を知らなかった可能性は高くて右折し踏切に近づいた。

### 素直の踏切と三差路

間にも合わなかった。武田さんは、待ち合わせの時間を過ぎても大久保さんが現れないことから、自宅に電話した。大久保さんは、携帯電話を持っていないため、他施設の職員と手分けして駅から自宅までの道を探した。その際、事故の知らせが入り、大久保さんらしいと聞き、現場に駆けつけた。

と共、三差路への音響信号機やエスコートゾーンを設置を求める要望書を市に提出した。

見えたかもしれない。事故現場の高架の上には、大久保さんが駅に向かう途中に迷っていたと見られるしなの鉄道の線路の下をくぐる道の様子と似ている。2地点の見え具合や音環境の類似性が勘違いを生んだのかもしれない。

**早急な対策を**  
視覚障害者が踏切から線路内に入り込み、命を落とす事故は過去にもある。2008年、北海道で踏切に置かれた踏切から踏切内に入った全盲男性が貨物列車にひかれた。こうした事故を防ぐ試みがある。阪急電鉄玉塚線藤原天神駅（大阪府豊中市）近くの踏切内には、エスコートゾーンのような連続した突起が設置されている。また、踏切から線路内に入っても、音響や警告音で注意喚起するような設備の設置はできないだろうか。

武田さんたちの報告書を機に8月、行政や鉄道、警察が現場一帯を巡回。今月中に市の道路管理や福祉の部署が視覚障害者への情報提供について話し合う。貴い命を無駄にしない、早急な対策が求められる。

# 点字毎日佐木記者 視覚障がい者(が) 現地検証



事故現場近くの踏切

見えたのかもしれない。事故現場の高架の上には、大久保さんが駅に向かう途中に迷っていたと見られるしなの鉄道の線路の下をくぐる道の様子と似ている。2地点の見え具合や音環境の類似性が勘違いを生んだのかもしれない。

**早急な対策を**  
視覚障害者が踏切から線路内に入り込み、命を落とす事故は過去にもある。2008年、北海道で踏切に置かれた踏切から踏切内に入った全盲男性が貨物列車にひかれた。こうした事故を防ぐ試みがある。阪急電鉄玉塚線藤原天神駅（大阪府豊中市）近くの踏切内には、エスコートゾーンのような連続した突起が設置されている。また、踏切から線路内に入っても、音響や警告音で注意喚起するような設備の設置はできないだろうか。

武田さんたちの報告書を機に8月、行政や鉄道、警察が現場一帯を巡回。今月中に市の道路管理や福祉の部署が視覚障害者への情報提供について話し合う。貴い命を無駄にしない、早急な対策が求められる。

視覚障がい者協会とわっこ自立福祉会合同で広範な  
検証を行った。(上田市議会議員も参加)



2018年11月17日検証

上田駅前集合して打ち合わせ  
を行い、駅のお城口コース・裏  
の温泉口コースに分かれた検証  
を行った。(天久保さんの歩い  
たと思われるコースをたどっ  
た)



上田駅お城口を検証しています。





点字ブロックの上を障害物がふさいでいます。歩行を遮っています。



**点字ブロックが破損しています。方向がわかりません。**



車いす障害者も点検をしました。歩道が傾斜  
しているので車いすの車輪がとられ移動が困  
難です。

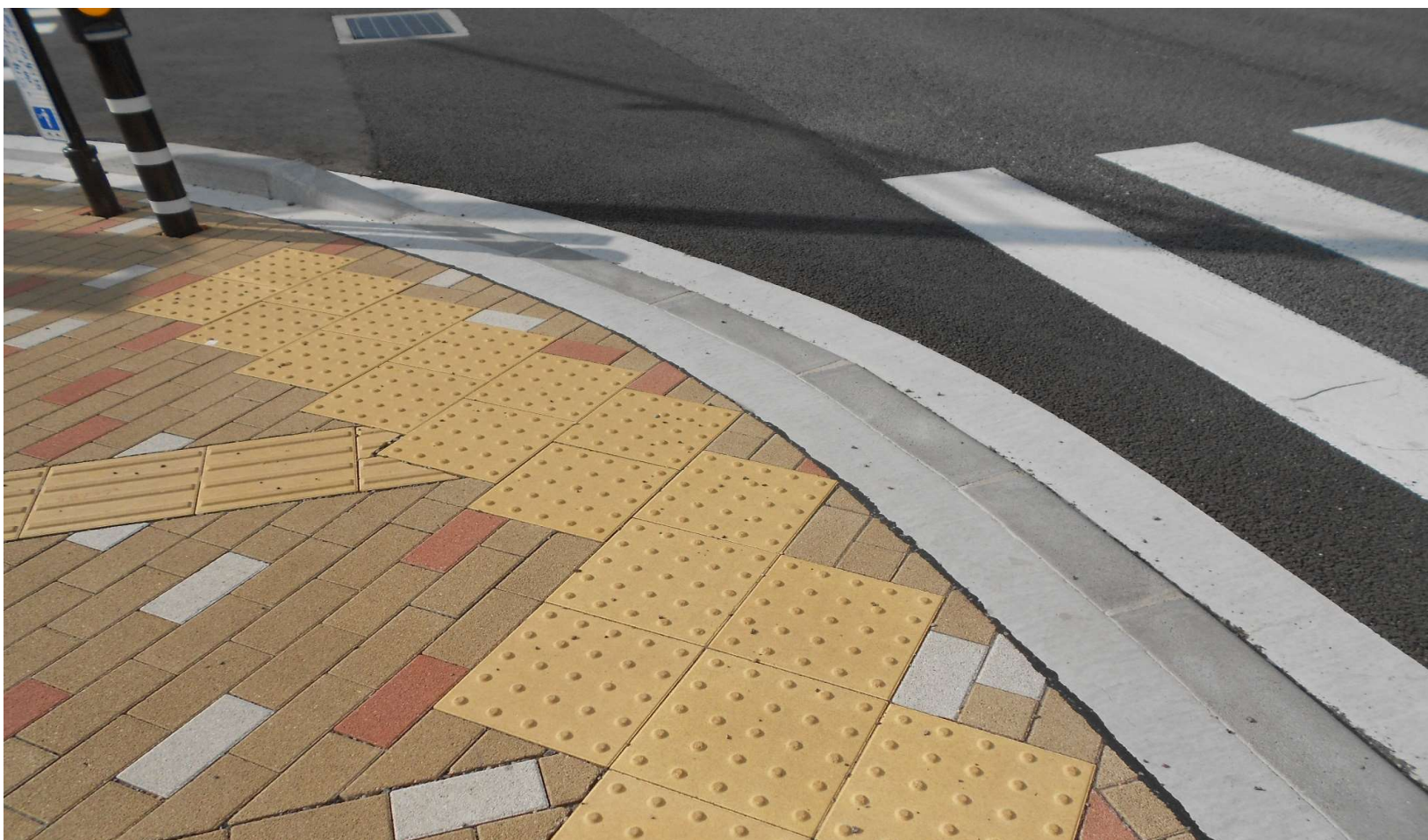


上田駅温泉口の階段の下にある、金属の鉾は、階段の終了の案内なのか、隣に点字ブロックがありません。



点字ブロックの前に置かれた花壇があり  
点字ブロックに重なり危険です。以前横  
断用にエスコートゾーンが設置されてい  
ましたが撤去されています。





**点字ブロックが末広がりに設置され、視覚障害者が車道に出ってしまう危険があります（合理的配慮がありません）。  
段差はカットされています。**



**ダブル段差がありますが（車いす障害者に合理的配慮がありません）、点字ブロックがしっかり横断報道をサポートしています。**

# わっこ新聞

特定非営利活動法人わっこ自立福祉会  
発行責任者 武田幸作  
上田市保野880-1  
電話(0268)3914568  
mail:jirin@pc11nifty.jp

## 昨年6月に起きた視覚障がい者 しなの鉄道踏切事故死を受け

### 上田市が交差点の点字ブロック改修へ

昨年六月二十四日上田市天神二丁目しなの鉄道踏切で視覚障害者を持つ大久保五男さん(七五)が快速電車にはねられ死亡した事故で再発防止の為に交差点の点字ブロックの改修を十月から始める事を明らかにした。

### 上田市議会にて

二年前に「障害者差別解消法」が施行されたが障害者差別解消に向けた「合理的配慮」が充分にされていない。障害者が参加する中で点字ブロックが検討されず健眼者の視点で作られた弊害が方向を誤る危険性をほらんだ点字ブロックの設置だった。また歩車分離交差点での案内が視覚障害者に解らない、音声案内がない、などの事も指摘されている。さらに高齢中途障害者が点

字が殆ど読めない中での情報提供のあり方も課題になっている。九月十日上田市議会一般質問で石合議員の質問に対して、上田市は今後とも情報提供、必要な改善

を障害団体と連携してすすめて行く事を明言している。交差点の信号機は県警の管轄だが市の働きを強めて行く。今後とも行政の歩みを確認しながら障害者が安心して暮らせる街作りを築くために検証作業を継続してゆかなくてはならない。

一人一人声を上げよう  
てはならないが現実  
は重い。これが差別  
の現状だ。差別は人  
を寡黙にする。拒否  
できない現実があっ  
た。まず一番に謝罪  
すべきは国だ。自ら  
の非を認め検証すべ  
きた。にも関わらず  
裁判で争う姿勢を見  
せている。早急に被  
害者の救済を行い二  
度とこのような事が  
起きないようにすべ  
きた。同じ過ちを起  
こしたスノーデンで  
は国が謝罪し、救済  
処置と共に過ちを繰  
り返さないために検  
証を行っている。優  
生思想の差別の現実  
に声を上げよう。

### 「優生思想・差別の連鎖根絶に向けた学習会

八月二十五日、九月一日の両日「優生思想」・差別の根絶に向けた連続学習会を行いました。参加者が少なかつたが旧優生保護法が

戦後日本国憲法のも  
とで成立し、「不幸  
な子孫を生まない」  
ことが推奨されてき  
た。国、自治体、医  
師、相談員、支援員  
そして家族も

あまりに残酷な現実  
がある。  
優生思想があらゆる  
差別の根底に入り  
込んで拡大している。  
根絶にむけて一人  
一人が向き合わなく



# 要望書と署名を上田市に提出 ・上田市議9月10日一 般質問(点字ブロックが改修 されました)

# 観光駐車場交差点



### 長野 上田の事故現場付近

## 音響信号機を設置

### 各地で信号改善の要望

視覚障害者やろう者が街中を歩く際、より注意を要するものが横断歩道の利用。安全に渡れようとするための設備の適切な設置が求められる中、各地で当事者が声を上げています。

【佐々理人、平井悠行】

今年1月末、長野県 上田市の交差点で、視覚障害者が横断歩道を渡る際に、音響信号機が故障したため、横断歩道の利用が困難になった。安全に渡れようとするための設備の適切な設置が求められる中、各地で当事者が声を上げています。



上田市内に設置された音響信号機。設置場所は中山崎さん。

中山崎さんは、視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。

中山崎さんは、視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。

中山崎さんは、視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。



中山崎さん(左)と市役所職員(右)。

中山崎さんは、視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。

中山崎さんは、視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。



視覚障害者やろう者の利用が困難な横断歩道の改善を求め、市役所に要望書を提出した。市役所は、中山崎さんの要望を受け、音響信号機を設置することを決定した。中山崎さんは、音響信号機が設置されたことを喜び、市役所に感謝状を提出した。

音響信号機が設置された横断歩道。中山崎さんの音響信号機。

### バイオリニストの川島さん

### 職業訓練充実へ寄付

### 日本LHに13年から毎年

バイオリニストの川島さんは、職業訓練の充実を目的として、日本LHに13年から毎年寄付を行っています。川島さんは、バイオリニストとして活躍しており、社会貢献活動の一環として、職業訓練の充実を目的として、日本LHに13年から毎年寄付を行っています。

# 2019年1月タッチ式 信号機設置



交差点四か所にタッチ式信号機が設置  
されました。



# 視覚障害者ら 信号機を点検

## 上田 県内初「タッチ式スイッチ」



上田天神の上田線南交  
差点の通行専用信号機は県内  
で初めて設置された「タッチ  
式スイッチ」を巡り、同市の  
視覚障害者が1日、現場で  
使い勝手を点検した。交差点  
に近い踏切付近で視覚障害  
者らによる列車にはねられて  
死亡する事故を避け、県が  
2019年1月に設置。その  
後、障害者が使い勝手の改  
善を要望し、改修されたこと  
を喜び、点検した。

タッチ式は視覚障害者の  
ボタンと機械音用ボタンが分  
かれ、従来の押しボタン式と  
尿床の音が広く、スイッチ  
の場所を知らせる「ブーン」と  
いう音も鳴る。当初障害者  
断歩道近くの4カ所に設置。  
昨年6月に関係者が現場で  
異変を検出した際、横断歩道側  
に新たに設置されたタッチ式ス  
イッチボタンなどの場所や高  
さを詳しく調べ、設置位置が一  
つ上田

への増設の動きを待てる方所  
市のNPO法人わっぴこ自立福  
祉推進の武田孝作さん(69)は  
「以前は小か音で、」音の強  
弱や高さで「ブーン」とい  
う音も聞きやすくなった。た  
だ、市内、県内で統一して  
死亡事故の検証を受ける間  
この目撃でタッチ式を利用  
「はい」との声も出た。

# 県内初のタッチ式信号機 当事者が確認

タッチ式信号を操作しています。  
側に金属の立て看板があり危険です。



タッチ式信号機の側にガードレールがあり、横断歩道へはいけません、点字パネルの案内もありません。



タッチ式信号機を操作してもガードレールがある為、横断歩道にで  
れません。





タッチ式信号機の側に金属の立て看板があり、パネルを操作するときにケガをする危険があります。

### 視覚障害者向け 上田の「タッチ式スイッチ」信号



県警の担当者(右)にスイッチの位置の改善を求める参加者

## 「横断歩道から離れ過ぎだ」

上田天神の「上田城跡」交差点の歩行者用信号機に今年1月、県内で初めて設置された「タッチ式スイッチ」の使い勝手を改善しようと、県警や市障害者団体がこのほど、現地で検討会を行った。障害者団体からは、スイッチの場所や利用者知らざる発音の音量について改善の要望が上がった。

タッチ式スイッチは、触れるだけで反応して音信になり、音信の間は進行方向が分かるよう音が鳴る。2017年2月、交差点近くの踏切付近で視覚障害者が列車にはねられ死亡する事故が発生。当時、音が鳴らなかつたため、男性が方向感覚を失い、誤って踏切に入つた可能性が浮上、県警が設置した。ただ、「スイッチが横断歩

### 障害者団体 現地検討会で改善要望

道から離れすぎている」となどの声が寄せられてきた。検討会には、障害者の屋外活動を行うNPO法人わがこ、自立福祉会(保野)、上田視覚障害者福祉協会などの代表者と、県警本部交通規制課、市障がい者支援課、都市計画の担当者ら十数人が集まった。

この日も、参加者から「スイッチが横断歩道から離れ過ぎて」との指摘が出た。横断歩道近くには、車に注意促す反対向きボールが立つため、県警や市の担当はボールを移動させてスイッチを設置できるか検討した。ほかに「スイッチ」を増設するところ、スイッチの位置を知らざる発音の音量を上げるといった要望が出た。わがこ、自立福祉会連署の武田孝作さん68は「障害者向けの設備は行政障害者が一緒に考えて作るべき。規格も全国で統一されれば使いやすい」と思うと話した。

# タッチ式信号の位置を点検しました。

改善を要望しました。





NPO法人わっこ自立福祉会

# 共に生きる街づくり マガジン

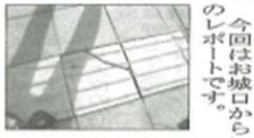
## わっこ新聞

特定非営利活動法人 自立福祉会 代表理事 武田 伸  
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
 TEL 03-5561-3301 FAX 03-5561-3302  
 E-MAIL: info@wakko.or.jp wakko@wakko.or.jp



私たちは、昨年十一月に視覚障がい者及び車椅子ユーザー、介護者と記録員そして写真班とで二つのチームに分かれて街並み点検を行いました。

点検コースは一つは上田駅お城口からホテルトイン前、しなの鉄道高架下から、アリオ北側を通りぬけ天神踏切を渡り城下公園、もう一つは温泉口からアリオへ向かい天神踏切を渡って公園へ向かうコースです。そのリポートを二回に分けてお知らせします。



今回はお城口からのレポートです。



⇒駅前交差点より天神二丁目交差点に向かいます。



⇒東横イン前に業者のトラックが点字ブロック上に駐車しています。視覚障がい者男性はコーンにぶつかりそうです。



⇒こちらは、こみ用の網が無造作に歩道上を占有しています。



⇒ニューパール通り交差点の直前、点字ブロックが途切れるような状態、マンホールがあり段差にもなっています。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒アリオ近くの信号の無い交差点、視覚障がい者にとって非常に危険な交差点。音声案内が無く、おしやってみました。



⇒ニューパール通り三叉路の構造は、片流れで、段差となっており車椅子を押している介助の方が横断するのに苦労しています。また、片流れの為に車椅子ユーザーの女性は道路側に倒れそうになり不安そうです。

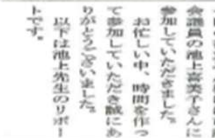


⇒事故現場の天神踏切の横断歩道2枚目の女性に道路側に入りそうに。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。

⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒事故現場の天神踏切の横断歩道2枚目の女性に道路側に入りそうに。

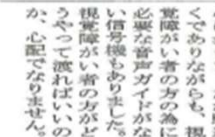


⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。

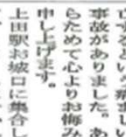
⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒事故現場の天神踏切の横断歩道2枚目の女性に道路側に入りそうに。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。

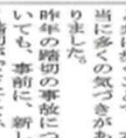
⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒事故現場の天神踏切の横断歩道2枚目の女性に道路側に入りそうに。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。



⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。

⇒アリオ北側歩道に設置されているポールにぶつかりそうになりました。

自主出版のわっこ新聞で  
 特集

また、歩行者道路についても補装が傷んでいる所も多く、車椅子の方は、少しの段差でも転ぶことと考へると早急な補修が必要だと感じました。

行政もただ手をこまねているだけでは、障がい者の方と共に点検し、いくつもの改善、改修されたところもあると伺い、ほっとしました。まだまだ十分ではありません。

私も障がい者の皆さまと共に歩くことで、本当に多くの気づきがありました。

昨年の踏切の事故についても、事前に、新しく踏切ができたこと、道路が入ったこと、防犯カメラもありません。何より情報が大事だともお聞きしました。行政がどうやって細かい情報を提供するかという、大事な視点も教えて頂きました。

当事者の方の声を聞く、共に行動するということが重要なことだともお聞きしました。

障がい者の方々が、安心・安全に生活できる地域は、高齢者や子どもたちにも優しいユニバーサル社会です。

全ての市民が幸せに暮らせる社会を目指して、現場第一で取り組んでいきたいと決意しました。

貴重な経験をさせて頂き大変にありがとうございました。

上田市議会議員 村上喜美子

## 「手話言語条例」案

### 上田市が意見募集

上田市は2020年度「手話・点字など」の普及、理解の促進を図る条例を制定する。名称は「市手話言語の普及及び視覚障害者等の意思疎通手段の利用促進に関する条例」。上原一市長の公約で対象を手話に限定していない点が特長。4月1日から1カ月間、条例案に対する市民意見を募る。

条例案前文で「障害のある人もない人も市民が等しく情報を取得し意思や感情を伝え合うのは私たちの願い」とし、そうした

#### あすから1カ月間

願いは「障害者基本法でも共生社会実現を図る基本原則として位置付けられている」と紹介。市は手話や点字など視覚障害者の意思疎通手段の利用促進施策や配慮の責務があること、市民も手話や点字を理解したり配慮したりする役割があることとした。こうした理念を具体化するため市が財政措置をするよう努めることと案文もある。

昨年6月以降、市障害者施策審議会で内容を検討。条例案の意見募集を経て6月9日市会に提案し、年内の施行を目指す。市障がい者支援課によると18年度の市内の視覚障害者数は約800人。条例案は4月1日以降、同課や市ホームページ、各地域自治センターで閲覧できる。問い合わせは同課(☎0263・23・51100)へ。

# コミュニケーション条例制定

# 上田 利用者を職員が暴行

## 障害者施設運営法人処分

### 県が初の事業者取り消しへ

上田市下之郷の就労支援施設「就労支援センターさん」として、利用者を暴行してけがをさせたとして職員が傷害容疑で逮捕、有罪判決を受けた事件で、県は22日、施設を運営する同市下塩尻の一般社団法人蚕都会（吉田景子代表理事）に対し、事業者の指定を取り消す行政処分を同日付で行ったと発表した。障害者総合支援法の規定に基づき対応で、取り消しは31日付。県による障害福祉サービス事業者の指定取り消しは初めて。



県障がい者支援課によると、昨年7月に職員ら3人が事業所で利用者に暴行を加えて傷害を負わせた他、うち職員1人は以前から利用者3人にたたいたり、蹴ったりする

身体的虐待を繰り返していた。4年ほど前から週2、3回、虐待を受けていた利用者もいたという。県は個人の特定につながるとして利用者の性別や年齢を明かしていない。

傷害容疑で逮捕された職員は懲役1年6月、保護観察付き執行猶予3年の地裁上田支部の判決が確定している。

県は処分理由で、同法人が事件後も職員研修などの再発防止策を講じず、職員2人に事件について口止めをして組織的な隠蔽を図り、県の監査に対して事件発生を隠す虚偽の答弁をしたと指摘。職員の人格尊重義務に反する行為を認知していたにもかかわらず

まず、障害者虐待防止法に基づく市町村への通報も行わなかったとした。

県は昨年10月～今年4月監査を行い、5月に元利用者からの聞き取りも実施した。県障がい者支援課の藤木素課長は「重大な事案で重くけ止めている」と説明。昨年度から県条例で研修や各課への虐待防止の責任者配置などを義務化しているとし、「取り組みが十分できていない設に対して集中的に指導をう」とした。

上田市障がい者支援課「利用者のよりどころとなる安全、安心であるべき施設虐待が起きていたことは看過できない」とした。同課によると、就労支援センターさんとは現在も1人が利用しており「利用者に合った別の事業者でサービスが受けられるよう支援したい」としている。蚕都会の吉田代表理事は日の取材に対し、「（被害や家族に）精神的な負担や感もかけた。申し訳なかった」とした。

障害福祉サービス事業者の指定取り消し処分が決まった就労支援センターさんと22日、上田市下之郷

繰り返される障がい者虐待

# 視覚障がい者からのお願い

★ハーネスを着けた盲導犬を連れた視覚障がい者を見かけた時、御会いした時のお願い、「さしすせそ」をお知らせします。

- さ→ さわらないで！
- し→ 盲導犬の目を見てしゃべりかけないで！
- す→ スマホなどで勝手に写真を撮らないで！
- せ→ せんべいなど、食べ物をあげないで！
- そ→ そーとみまもって♡、♡
- ハーネスを着けた盲導犬はお仕事中です！！ ペットでなく、視覚障がい者にとって命の綱です。ご理解・ご協力をお願いします。

# 追加のお願いです。

進行方向からずれているユーザーはどんどん 声をかけてください。

近年、視覚障害をお持ちの方が歩道以外の道を歩いているケースが見受けられます、そのような視覚障害者をお見掛けしましたら、大変危険ですので直ぐに声がけを行い、安全な歩道・路肩に誘導をお願いします。

## まとめ①

- 視覚障がい者のホームからの転落死が繰り返されています。また「津久井やまゆり園」の障がい者虐待事件以降も各地で障がい者の虐待が続いています。上田市で長野県初の就労施設の事業指定取り消しがありました。
- 大久保さんの事故死もしっかり情報が伝わっていたら防げた事故かも知れません。当事者参加のもとに点検を行った結果、誤った点字ブロックの設置や障害物が通路に置かれ、事故の可能性がある箇所がいくつかありました。当事者の計画段階から参画が問われている中で、信号機の設置も工事が終了した段階で確認の依頼があったことです。点検の結果不具合の箇所が多く見つかり、改修を求めました。無駄な費用、労力を必要とします。

## まとめ

- 当事者を含めた現場検証を行い、上田市への陳情、上田市議会の一般質問を行い「コミュニケーション条例」を実現しました。企画、運営の段階からの当事者の参加を今後とも求め、行政だけでなく、広く市民社会に障がい者が参画していくために「差別解消条例—合理的配慮」の実現を目指して行きたいと思えます。

2023年9月18日  
わっこ自立福祉会制作